

# 「そろばん」需要拡大の考えは

## 町長 認知症予防の効果を検証し普及を図る



老人施設での「そろばん」採用で産業普及や学校等での授業拡大の考えは。

65歳以上を対象に大人のそろばん教室を実施。ヘルスケアビジネス先進モデル事業で効果検証し、交流サロンや介護教室、老人施設等で普及を図る。

安部教育長

授業時間拡大は現在の教育課程の中では非常に困難と考えるが教育課程外の時間を活用した教育の導入については検討してみたい。

尾原ダム工事完了後に国からの事後支援の特別交付金はあるか。

尾原ダム事業完了後

国から町への支援的交付金は無い。国有資産等町村交付金として80万円の交付があり、町道など町管理の除草費用等に活用し「ダム対策費・水の緑推進事業」の中で計上している。

温泉の安価な入湯料は維持すべきではないか。

経年劣化と他の維持修繕費等上昇で近隣施設の状況を見ながら判断をした。「長者の湯」も同様に条例の範囲内で検討をお願いした。安定的な経営を図るため理解と協力を願う。

地元NPO組織や隣接住民組織等の経営や活動支援は。

指定管理者「NPO布勢の郷」や「とんぼの会」にて施設管理を運営。周辺地域の活性化に大きく貢献頂いている。経営指導や活動支援は当事者と協議し、助成など必要に応じて対応している。

卒業後、地元就職等の条件で奨学金新設の考

えはないか。

町単独では医療関係職種の奨学金制度を設けている。一般職種については雇用情勢の変化によつては検討すべき場合もあると考える。

通学費の助成や、な

りふり構わぬ就学者誘致が必要では。

横田高校後援会が実施主体で助成事業を実施。内容拡充は実施主体に伝える。就学者誘致については地方創生加速化事業の中で取り組んでいく。

高齢者の買い物支援に「テレビ電話」の更なる活用法は。

現在このシステム利用者はほぼ皆無で一人暮らしの高齢者にとって画面を操作しての商品発注は難しいと思われる。宅配サービスや移動販売車による支

援事業等の継続により多様なニーズに合った支援策を検討、実施する。

地方出身者との交流と地産品の消費拡大は。

東京・関西・瀬戸内に「奨出雲会」があり。毎年盛大に総会が開催され出席している。町の近況報告、特産品販売などで交流を深めている。今後さらに人と人の交流、情報の発信等深めていきたい。



関西奥出雲会（大阪市内）